

安野発電所への中国人強制連行

和解を導いた力 Part 5

被爆者・孟昭恩さんの生涯をふりかえる

日時：2025年10月18日(土)14:00～16:30

会場：広島弁護士会館 2階大会議室（広島市中区上八丁堀 2-73）

資料代：500円

主催：広島安野・中国人被害者を追悼し歴史事実を継承する会



被爆したときの様子を語る孟昭恩さん
(1993年4月、河北省大名県の招待所)

アジア・太平洋戦争の末期、労働力不足を補うために、東条英機内閣が閣議決定して、中国から約4万人の中国人を強制連行し、全国135か所の事業場で重労働に従事させました。その結果、約7000人が日本で命を落としました。生き残った中国人は、日本敗戦後、何の補償も受けることなく集団で帰国しました。広島では、西松組（現在の西松建設）が360人を安野発電所の建設工事に従事させ、29人が死亡（うち5人は原爆死）し、331人が帰国しました。

安野へ強制連行された中国人のその後の消息は長く明らかになっていませんでしたが、1992年から広島市民と河北大学による日中共同調査が始まりました。孟昭恩さんは93年に呂学文さんと一緒に半世紀ぶりに来日し、西松建設に対して三項目要求（公式謝罪、追悼碑と記念館建設、しかるべき賠償）を提出して補償交渉を開始しました。しかし西松建設が責任を認めなかったため、5人が原告となって西松建設を広島地裁に提訴。広島高裁で勝訴しましたが、2007年4月、最高裁の不当判決により敗訴しました。

「安野で私たちはトンネルを掘り、奴隷として使役されました。大隊長と3班班長は日本人のために尽くし、グルになって私たち中国人を虐げました。そのうえ、食べ物が少なくいつも空腹で、仕事は二交代で12時間働かなければなりません。これ以上我慢できない状況の中で、事件が起きました」

（孟さんは事件に巻きこまれて逮捕され、広島刑務所に収監されました）

「原爆が落ちたのは何月何日が覚えていませんが、私は一人で部屋の中にいました。窓の外でピカッと光がひらめき、雷が光ったみたいでした。音は聞きませんでした。屋根がどこかに飛んでいき、壁が倒れました。黒い雲に覆われて何も見えませんでした。大風が砂塵を吹きあげ、天も大地も暗くなり、あちこちで狼煙が上がって戦争が始まったようでした。建物がばらばらに壊れ、煙が立ち上っているのを見ました」

孟さんは日本敗戦後、帰国しましたが、一家は離散していました。

農業をして生計を立て、再婚して5人の子どもを育てました。2009年6月に85歳で亡くなりました。

最高裁判決後、2009年10月に西松建設との間で和解が成立しました。2011年5月、三男の憲法さんが和解事業の第2回訪日団に参加して来日しました。

被爆80年にあたる本集会では、孟昭恩さんの生涯を映像や証言を交えながら、さまざまな角度からふりかえります。遺族の孟憲法さんをお招きして、父・孟昭恩さんについて語っていただきます。ふるってご参加ください。

<プログラム>

- 第1部 孟昭恩さんの生涯をたどる
遺族が語る孟昭恩さん
孟憲法さん（三男、河北省大名県）
- 第2部 強制連行された中国人被爆者
◎上映「トンネルに風が吹いた日
～強制連行・被爆した中国人を追って」
（1993年 RCC 中国放送制作）
◎獄中被爆の真相
岩崎誠さん（中国新聞特別論説委員）
佐田尾信作さん（フリージャーナリスト）

獄中被爆した孟昭恩さん



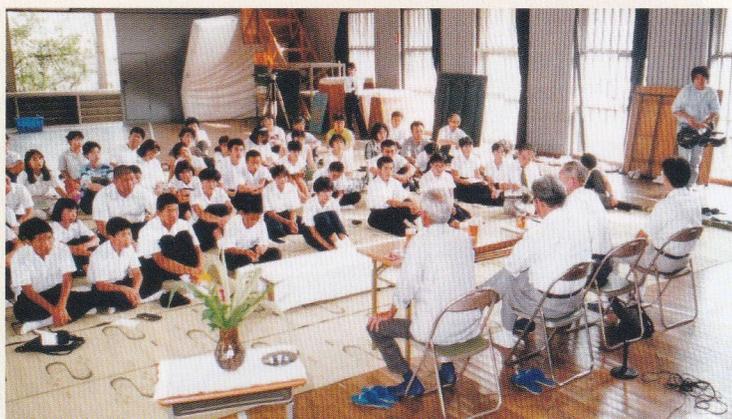
宮崎安男さん（広島県原水禁代表委員、前列左から2人目）を
団長とする調査団が孟昭恩さん（右から2人目）から聞き取り
を行なった（1993年4月30日、河北省大名県の招待所）



広島平和記念式典に参列した孟昭恩さん（左）と呂学文さん
（1993年8月6日、広島平和記念公園）



西松建設に対し三項目要求をつきつけた後、記者の取材を受ける
孟昭恩さん（右端）と呂学文さん
（1993年8月3日、広島市内の西松建設中国支店応接室）



生徒たちに体験を語る孟昭恩さん（手前左端）と呂学文さん
（1993年8月6日、安野中学校）



三男の憲法さん
（先頭一人目）は
和解事業の第2回
訪日団に参加して
来日。追悼式で献
花した
（2011年5月14日）



孟昭恩さんと妻、子や孫たち。後列中央は憲法さん
（2003年3月22日、河北省大名県の自宅）

10月19日（日） 遺族・孟憲法さんとともに追悼のときを

- ① 11:00～12:30 坪野フィールドワーク 安野発電所前集合（安芸太田町坪野）
- ② 13:30～14:30 第18回中国人受難者を追悼し平和と友好を祈念する集い
会場：「安野中国人受難之碑」前
- ③ 14:50～15:30 善福寺で追悼法要

<①②③は申込み不要、参加費無料です>

ご参加
ください

* 広島市内から現地へマイクロバスを運行します
定員20人。乗車申し込みは下記連絡先まで

【連絡先】 広島安野・中国人被害者を追悼し歴史事実を継承する会

《電話》 080-3880-8340 《Eメール》 ykkwhr@pony.ocn.ne.jp 《ホームページ》 <https://keishousurukai.com/>